

「ドキドキわくわく きらっ！ひとひひとひがかがやいて」

＜網野幼稚園の教育活動＞

網野幼稚園では、生きる力を育み、豊かな心を育てる取り組みを基盤として教育活動を進めている。その中でも特に平成20年度は、

『ふれあい・つながり・ささえあいー 楽しく運動し、体感しながら生活に必要な活動を自分でするようになるには、どのような環境の構成や教師のかかわりが必要か。』

を重点目標に据え、研究・実践を行って子ども達の教育活動を行った。

1. 子ども達の実態を見たとき、

- (1) からだの面では、犯罪・交通事情・地域力の低下など子ども達が安心して戸外で十分遊べる環境がなくなっていること、楽しいおもちゃやゲーム等遊び道具が氾濫し、子ども達を室内へ向かわせている傾向にある。また、以前には遊びの中で自然に身についた運動能力が、今は援助しなければ育たない。また、“できる”“できない”にこだわったり、失敗感が先行して体を動かすことを避けようとする傾向さえある。
- (2) ことば力については、場所や状況を構わずおしゃべりは良くするが、困ったことやしてほしいこと、伝えたいことや伝えなくてはいけないことを「ことば」で伝えることができない、あるいは、大人が先取りして言葉にしなくてもいい環境になっているのではないかと聞かせる様子が見せているが、個々の語彙力が極端に少なく、絵本やお話に出てくる言葉を理解できていないことも往々にしてある。
- (3) 食事（食べる力・食べたいと思う力）についても、食べる姿勢や箸の持ち方・使い方、食器を持って食べる等、食事の指導がなされずに集団に入ってくる。そのため指導してもなかなか改善しない。偏食、遅食、咀嚼力のない子が多く、飲み込めないなどの状況が多くみられる。（特に、野菜・パン・魚・海藻など。）
- (4) 睡眠についても、登園後、座り込んでしまったり身回りの片づけができなかったり、登園時間が遅くなったり、情緒が中々安定しない、朝からあくびが出るなど、就寝時間が遅いのではないかと思える状況が数多く有る。

2. 研究の捉え方

子ども達の実態を捉えた上で、この状況を幼稚園の教育活動の中で克服するためには意図的に子ども達が楽しいと感じる運動遊びを多く取り入れていくこと、また、そのことが体を作るとともにお腹がすいて食欲を引き出し、また、「つかれたー」「お茶飲みたいわ」「たのしいねー」「こうした方がええ」などと、体験から自然と出る言葉を増やし、また友だちと相談したりルールを考え出したり、自ら進んで生活や行動ができるようになるのではないかと考えた。

3. 実践内容

(1) リズム運動

友だちや教師と一緒にリズムに合わせて動き、共に活動することを楽しむ。リズム運動は自分の体の隅々までを意識して動かす。またみんなですることにより、動くと同時に静止したり友だちの動きを見て待つ・考える・我慢するといったことも体験し身につけることができた。

(2) キッズサッカー（サッカー協会の指導のもと、年10回）

サッカーという枠に捉われず、子どもが自然と走り回れ、それが友だちと一緒に楽しいと感じたり、またやりたいと思える運動遊びを意図的に取り入れようとキッズサッカーの指導を受けることにした。実

際の指導では、導入の遊びで子ども達の運動への意欲を引き出し、サッカーゲームそのもののルールには大きく拘らず楽しむことができた。一杯走りまわったあと、「汗いっぱいいたわ」「楽しかったー」「またしたいねー」という子ども達の声も多く、園庭や体育センターを利用して毎回楽しむことができた。

(3) ドッジボール・竹馬・縄とび～自分の目標をもって～

最初はボールが体に当たることが怖くて参加する子どもが少ないドッジボールだが、その面白さにだんだん参加する子が増えて来る。ちょっとした時間でも「ドッジしようなー」と人気が高い。みんなで一緒にしているという満足感・一体感も心地よくさせているように感じる。

また自らが課題を持って取り組む竹馬や縄跳びは、子どもたちが「よーし、やったみよう！」という意欲が出てくるのを待ち、励まし、教え合い、援助しながら、それぞれが目標に向けてやり切るように仕向けた。一斉に「やってみよう」とさせるのではないだけに長い期間もかかり、個々の子供で目標とする到着点も違う。その中で、それぞれがやり切った満足感を感じるとともに、苦手？難しそう？怖いな？と当初遠ざけていた運動遊びも克服し、また一步運動遊びをすることを楽しいと感じるようになったと思う。

(4) 絵本の読み聞かせ

担任は勿論、園長・図書館の読み聞かせボランティア・保護者からも読み聞かせボランティアを募って、様々な声で、形で、場所で、絵本やお話に触れる機会を多く持った。

最初はただく見る>ことを楽しんでいただけの子供たちであったが、言葉を説明したり、ゆっくりみんなで確かめ合いながら繰り返し読むなどの工夫を重ね、内容も分かるようになってきた。絵本が大好き！と思えるようになった子どもが多くなったと感じる。

(5) 日々の活動のなかでの話し合い

仲間と一緒に楽しく遊ぶためには、ルールや教え合いが必要になってくる。子ども達の遊びの様子を見守りながら、思いを話し合う機会をもつようにした。

(6) 絵本のイメージを運動会のテーマに

日頃から親しんだお話や絵本をイメージしながら、運動用具を〇〇（まめのつる）に例えたり、この用具をこういう風に使いたいなど、子ども達の思いや考えを受け入れながら運動会を進めた。

具体的に運動していく中で子供自身が体感していることと、お話のイメージを共有化するために繰り返しお話を読んだり見たり、ある朝には、廊下につる（綱引きの縄を利用して）を出現させたりしながら、子供たちがしっかりイメージできるようにした。幼児といえども運動は個人差があり、運動会では格差や失敗感・敗北感を感じてしまう面が大きい。しかし、こうしてイメージ作りをすることで、実現できることが多くなり楽しく運動会を過ごすことができた。

(7) 朝マラソンとラジオ体操

秋深くなると、生活習慣も勿論ながら天候や気温も左右して子ども達の日覚めが十分でなくなってくる。登園してから何となくボーっとしている子も多くなった。お始まり直後に、朝マラソンとゆっくり体を動かすためにラジオ体操をすることにした。行進曲1曲走るとは同じスピードや持続力が続かない時期もあったが、継続するうちに、体がしっかり目ざめ、すっきりした表情を見せるようになってきた。

4. 成果と課題

- ・体を動かす色々な遊びや運動を経験させ、その楽しさややる気を育てることができた。
- ・遊びを通して、同年齢や異年齢の仲間と一緒に遊んだり、言葉を介して教え合ったりルールを考えたりするようになった。
- ・幼稚園で思いっきり体を動かして遊んでいることにより寝つきが良くなっているようだ。
- ・大人も子どもも夜型生活が一般化し、生活のリズムを子ども自身に意識させたり家庭で考えてもらうことには、まだまだ大きな壁がある。

平成 20 年度教育実践指定研究事業

教育実践モデル校

自校の教育目標を達成するため、指導力の向上を図るとともに協働的な指導体制を確立し、学校全体の教育力を高める総合的な取組を行い、その成果を市内の各学校に波及させることを目的として、各小中学校に対し公募しました。その中から申請のあった 7 校を京丹後市教育委員会教育実践モデル校として指定しました。

指定校では、それぞれ学校の課題に応じて取り組むべき実践テーマを定め、授業実践力等の指導力の向上を図るとともに協働的な指導体制を整え、学校全体の教育力を高める総合的な取組を行いました。

学校名	実践内容等
丹波小学校	『子ども達が「いきいきえがお」で楽しく学ぶ算数科の授業づくり』 主体的に学習に臨む児童の育成を図るため、学級づくりと授業づくりの連動による研究活動。全学年で研究授業を実施し、公開授業研究会の取組。南ブロック（峰山・大宮地域）小中学校への公開授業、研究発表会の開催。
大宮第三小学校	『確かな学力を身に付け、主体的に学ぼうとする児童の育成』 主体的に学ぶ力を育成するための指導（聞く力・読む力を大切にするとともに、自分の考えを自分の言葉で話す力を付ける）。基礎・基本の確実な定着を図る研究。学級経営の充実を図る指導。公開授業の実施。
豊栄小学校	『自ら学び、深く考え、生き生きと表現する児童の育成』 国語科を中心として、言語を通して自ら考え、伝え合い、学び合う児童の育成。確かな学力形成につなぐ基礎的・基本的な学力の充実。研修の充実と推進。研究発表会の開催。
野間小学校	『伝え合う力を高める』 国語科を中心に、表現力を高め、伝え合う力を育てる指導について、研究・実践。日頃から児童に発表・発言することに自信を持たせるような取組。研究発表会の開催。研究のまとめ冊子の配布。
川上小学校	『体感』 「体感 意欲 創造性 思いを表現する心 表現の技術・技法の習得」をキーワードとした授業実践。「体感」しながら身につけていくという学習を取り入れ、図工・理科・生活科の授業の中で実践。研究発表会の開催。

田村中学校	『読解力を高め、自分の思いをいきいきと表現しあえる授業をめざして』 「聞く力を付けること」「読む力を付けること」と「思いを表現し合える学習集団に高めること」について明らかにする実践。西ブロック（久美浜地域）小中学校を対象に実践研究発表会の開催（公開授業・研究報告・実践発表・指導講評）。
間人中学校	『校内教育活動全般における表現力の育成とその向上に努める』 「表現力育成」と「学習規律の確立」をねらいとした校内研究会の実施。基礎学力推進委員会を中心とした組織的な取組の推進。さまざまな生徒指導の場面で「素直に聞く」「素直に書く」「素直に言う」を重点に指導。研究発表会の開催。



研究指定校

指定事業のより充実・発展並びに市内各学校へのより効果的な成果の波及のため、文部科学省又は京都府教育委員会から指定を受けた市内小中学校 7 校に対し、京丹後市教育委員会研究指定校として指定しました。

学校名	研究内容等
吉原小学校	京都府教育委員会指定「京の子ども・夢未来校」（学力向上公募校） 『言葉を大切にした読みを生かし、深め合いのある授業の創造』 授業改善を進め、指導の充実を図る。国語科における主体的な読みの深まりを目指す指導を通し、学力の充実を図る。学習で身につけた力を生活の中で生きて働く力へと育成。研究発表会の開催。公開授業。
網野北小学校	文部科学省指定「学力向上実践研究推進事業」 京都府教育委員会指定「京の子ども・夢未来校」（カリキュラム開発校） 『生き生きと学び合い、「分かる」楽しさが実感できる授業を目指して』 算数科を重点教科に位置付け、児童の知識・技能の活用力にも着目し、学力向上プログラムを策定。「分かる」楽しさが実感できる授業を目指し、一時間一時間の基礎基本を大切にした授業作りの推進。「活用する力」の育成を目指し、「知識・技能・思考力・表現力・判断力」を培うための授業改善。単元パッケージのホームページでの公開。講師を招聘しての研修。
橘小学校	文部科学省指定「全国学力・学習状況調査等を活用した学校改善の推進に係る実践研究校」 『「確かな学力」の育成を図るための学校改善』 国語科を重点教科とした授業改善の取組。全教育活動の中で育み身につけさせたい力（「主体的に考え、行動する力」）の育成。生活習慣アンケート、懇談会の実施等、家庭と連携した取組。研究会での報告。研究冊子の作成。ホームページでの研究成果の公開。
黒部小学校	京都府教育委員会指定「京の子ども・夢未来校」（教育課題対応校） 『確かに読み取り、生き生きと豊かに伝えあい、学びあう児童の育成』 主体的に学ぶ力の育成。学習に向かう「姿勢」、「主体的に学ぶ意欲」を育てるため、日常的に、心を育て体をつくる取組。学び合う学級経営・確かな学びができる学習規律を確立するよう、校内研修会等で交流し、指導力の向上を図る。

橘 中 学 校	京都府教育委員会指定「京の子ども・夢未来校」（学力向上公募校） 『読解力向上を中心とした確かな学力の育成』 全教育活動を通じて読解力の向上を目指した取組を推進。すべての原動力となる「学ぶ意欲」を高める。読解力の向上と読解力不足からくる学力低下を補うような授業改善。研究発表会の開催。教頭会・教務主任会・市中研教科部会等の研修時に発表。
宇 川 中 学 校	京都府教育委員会指定「京の子ども・夢未来校」（教育課題対応校） 『主体的に学ぶ意欲の向上』 先進校を視察し、「各教科における言語力の育成」や「授業改善」及び「学習環境」について学び校内研修を実施。「やらされる学習」から「自らの意志で行う学習」へ繋げる取組。「書く活動」を意識した取組。教務主任会において、取組状況の説明。丹後学力向上対策会議（研修会）において実践発表。



平成 20 年度授業実践力開発講座

確かな学力形成を目指す授業理論と教材を介して子ども同士の望ましい相互作用を組織する指導理論を学び、授業づくりと学級づくりを一体のものとして指導できる授業実践力を高めることをねらいとし、教職経験 10 年未満の小学校教諭を対象に実施しました。

「京丹後市教育委員会と国立大学法人兵庫教育大学学校教育研究センターとの協力に関する協定」に基づき、兵庫教育大学学校教育研究センターより講師を招聘して講義を行い、23 名が受講しました。

また、教育委員会が委嘱するコーディネーターを配置し、小グループによる指導案づくり、指導案検討のワークショップや公開授業も行いました。

受講後、受講生が自己評価を行った結果、教科内容や教材の理解、授業の構想力、個に応じた指導の能力などの指導技術、学級づくりの能力が大きく向上したことが分かりました。また、子どもの成長・発達の理解が深まるとともに、同僚・保護者・地域社会との信頼関係の構築力も向上し、受講者が自らの授業実践に自信を持ってきたことが伺えました。

平成 20 年度 授業実践力開発講座年間報告

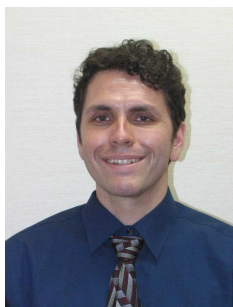
回	実施期日	会 場	内 容
	5 月 29 日(木) 16:00～17:00	アグリセンター大宮 視聴覚教育室 A	コーディネーターの委嘱について
1	6 月 5 日(木) 14:00～16:30	大宮庁舎 第 2・3 会議室	開講式 講義「授業づくり・学級づくり」 講師 兵庫教育大学大学院教授 長澤 憲保 氏
2	6 月 26 日(木) 13:55～16:30	豊栄小学校	公開授業 5 年生「サクラソウとトラマルハナバチ」 豊栄小学校 荻野義晴教諭 グループ協議 助言指導 兵庫教育大学大学院教授 長澤 憲保 氏
3	7 月 10 日(木) 12:50～16:45	大宮庁舎 第 2・3 会議室	講義「教材分析と学習指導の構想づくり」 講師 兵庫教育大学大学院教授 長澤 憲保 氏 グループ協議
4	7 月 25 日(金) 14:00～17:00	大宮庁舎 第 2・3 会議室	講義「認識形成過程の構成と展開」 講師 兵庫教育大学大学院教授 長澤 憲保 氏 グループ協議
5	10 月 16 日(木) 14:00～17:00	網野南小学校	公開授業 3 年生国語「ちいちゃんのかげおくり」 網野南小学校 豊島直子教諭 グループ協議 指導助言 兵庫教育大学大学院教授 長澤 憲保 氏 ＜都合により中止＞
6	11 月 20 日(木) 13:55～16:30	宇川小学校	公開授業 5 年生国語「わらぐつの中の神様」 宇川小学校 岡善弘教諭 グループ協議 指導助言 兵庫教育大学大学院教授 長澤 憲保 氏
7	1 月 22 日(木) 14:00～16:30	大宮庁舎 第 2・3 会議室	講義「学ぶ意欲を育てる学級づくり・授業づくり」 講師 兵庫教育大学大学院教授 長澤 憲保 氏 受講成果のまとめ 閉講式

英語指導助手

現在、京丹後市では 6 名の英語指導助手を配置しており、旧町域を単位として各 1 名が小中学校を訪問し、英語教育の補助をしています。

主に中学校での英語教育の補助をしています。定期的に小学校へも訪問しており、外国人と接する機会が少ない京丹後市において、児童生徒にとって生きた英語や外国文化を直接的に学ぶ貴重な機会となっています。

峰山



ライル・クーパー
(H18.8～H20.8)

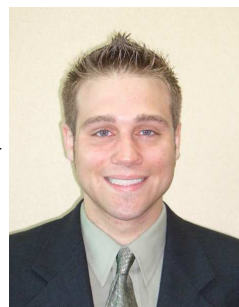


ラントリー・グレイ
(H20.8～H21.7)

大宮



スコット・キアニー
(H19.7～H20.7)



マシュー・ファレル
(H20.7～H21.7)

丹後



ラントリー・グレイ
(H17.8～H20.7)



ロバート・レナー
(H20.7～H21.7)

弥栄



リー・ジョンソン
(H18.8～H20.8)



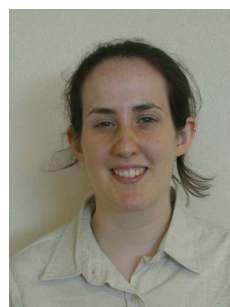
メーガン・ブレスリン
(H20.8～H21.8)

網野



ロザリー・ハミルトン
(H19.8～H21.8)

久美浜



レイチェル・ハッチェンソン
(H17.8～H21.7)

スクールサポーター設置事業

小中学校における学習指導内容の充実や、特別な支援を必要とする児童生徒の学習環境を整備するとともに、児童生徒及び教師の悩みやストレス等を和らげ解消できる体制を整えて、児童生徒及び教職員が心にゆとりを持てる環境づくりを進めています。そのために、生徒指導、学習指導、介護支援及び相談等を補助的に援助するスクールサポーターを設置しています。

【介護職員】（12校に延べ15名）

発達障害を含む障害を持つ児童生徒に対し、身体的な安全や他の児童生徒への危害等が予見され、特別な支援を必要とする場合に介護職員を配置

【複式学級困難校加配職員】（4校に延べ4名）

複式学級の担任教諭の指導補助として、学級の児童の状況に応じ、きめ細かく行き届いた指導を行うために、加配教員を配置

【心の教室相談員】（各中学校及び大宮第一小学校に1名、計10名）

児童生徒が悩みを気軽に話せて、不安を和らげることができる第三者的な存在を学校に配置し、児童生徒が心にゆとりを持てるよう援助するため、また教室に入れない児童生徒のための心の居場所として学校内に相談室を備え、相談員を配置



京丹後市教育相談事業

京丹後市教育委員会では、教育相談に関する専門的な助言及び研修機会を提供することにより、各学校における教育相談機能の充実を図るために、臨床心理に関して高度で専門的な知識及び経験を有する教育相談員を配置しています。

原則として、各幼稚園・小中学校の教職員を対象とし、毎月第 2・第 4 月曜日の午後及び火曜日午前を相談日としています。

事業内容

(1) 学校教育相談支援事業【幼・小・中学校】

学校（園）からの、不登校、不登校傾向、教室での不応、情緒不安定等に関する相談に基づき、当該校（園）の担任、養護教諭、教育相談担当者等へのコンサルテーションによる学校支援

(2) 研修事業

ア 教育相談担当者研修【小・中学校】

各学校の教育相談担当者全員を対象にした研修

イ 初任者研修【幼・小・中学校】

教諭、養護教諭の初任者全員を対象にした研修

ウ 事例研修【小・中学校】

不登校、不登校傾向、教室での不応、情緒不安定児童生徒を直接指導・援助する立場にあり、受講を希望する教員を対象にした少人数グループ編制による事例研修

エ 心の教室相談員研修【小・中学校】

心の教室相談員全員を対象にした研修

(3) 教職員のメンタルヘルスに関する相談事業【幼・小・中学校】

にこにこカーの配車～地域ぐるみで子どもたちを守る～

市民のみなさんと協働・共創による安心・安全なまちづくり
多額の寄付を受け 子ども安心パトロール車 愛称“にこにこカー”を配置
～地域ぐるみで子どもたちを守る～

京丹後市では、地域ぐるみで子どもを守るネットワークづくりを進めていく中で、児童生徒が被害者となる残酷な事件から子どもを守ることを目的として、平成 17 年度に市内複数の企業から多額の寄付を受けました。市では寄付の趣旨を踏まえ、児童生徒の安全確保・被害防止対策の強化を図るため、『京丹後市子ども安心パトロール車』（愛称：にこにこカー）を 7 台購入し市内教育機関に配置しています。

平成 18 年度及び 19 年度にも、市内企業からそれぞれ 7 台の寄付を受け、計 21 台を各小中学校に配置し、児童生徒の登下校中の安全を見守っています。

号車		配車校			配置日
1	峰山	峰山小学校	丹波小学校	峰山幼稚園	H18 年 3 月
2	大宮	大宮第一小学校	大宮第二小学校		
3	網野	網野北小学校	網野中学校	網野幼稚園	
4	丹後	間人小学校	間人中学校		
5	弥栄	吉野小学校	弥栄中学校		
6	久美浜	川上小学校	高龍中学校		
7		教育委員会			
8	峰山	吉原小学校	長岡小学校		H19 年 4 月
9	網野	網野南小学校	郷小学校		
10	網野	橘小学校	橘中学校		
11	丹後	宇川小学校	宇川中学校		
12	弥栄	溝谷小学校	鳥取小学校		
13	久美浜	久美浜小学校	久美浜中学校		
14	久美浜	田村小学校	海部小学校		
15	峰山	新山小学校	峰山中学校		H20 年 4 月
16	大宮	大宮第三小学校	大宮中学校		
17	網野	島津小学校	三津小学校		
18	丹後	豊栄小学校	竹野小学校		
19	弥栄	黒部小学校	野間小学校		
20	久美浜	神野小学校	湊小学校		
21	峰・久	五箇小学校	佐濃小学校		

平成 20 年度 学校情報化推進

学校の情報化の推進については、コンピュータやネットワークの整備といったハード面での環境整備のほか、授業支援ソフトの活用によるわかりやすい授業を展開し、さらなる学力の向上を目指し整備しました。また、学校ホームページを活用した学校の情報を提供できる環境を整備しました。

【情報教育の目標】

小学校

情報通信ネットワークやコンピュータなどに慣れ親しみ、身近な道具として適切に使いこなせる能力と態度の育成。プライバシーの保護や著作権などの基本的な情報モラルやマナーの育成を図る。

中学校

情報通信ネットワークやコンピュータなどを主体的に学び、他者とのコミュニケーションを行う道具として積極的に活用する能力と態度の育成。情報化の影の部分について、理解の深化と情報モラルの育成を図る。

【学校情報化推進に向けた目標及び実施】

① IT環境の整備・IT教育の充実

小学校(峰山、新山、大宮第一、大宮第二、大宮第三、間人、竹野、吉野、溝谷、鳥取、黒部、久美浜、川上、海部、佐濃、田村、神野、湊)18校 409台の更新。授業支援ソフトの導入。

② ホームページを利用した学校からの情報提供

小学校31校、中学校 9 校のホームページの作成及び更新。

